

令和6年度 校内研究

「生活の安定と他者との関係性を育む自立活動の取り組み」

「モチベーションの維持をめざした 学習活動の工夫と指導支援」

(意欲の向上グループ)

I 研究内容

- (1) 前向きに取り組む、楽しくできる、
取り組む意味を理解している等の姿
につなげるための活動及び目標設定
の工夫について
- (2) 意識しながら（考えながら）学習活
動に取り組むための工夫について

Ⅱ 実践報告

1 生徒の実態について

(1) 病弱の観点からの情報収集

①医学的側面から

既往・生育歴	
病気等の状態	生徒の個人情報に関わるため、掲載していません。
心身の状態や発達	

1 生徒の実態について

(1) 病弱の観点からの情報収集

②心理学的、教育的側面から

発達の状態に関する こと		
本人の障がいの状 態等に関する こと		

生徒の個人情報に関わるため、掲載しておりません。

(2) 自立活動の観点からの情報収集

区分名	項目	生徒の状態
心理的な安定	(1) 情緒の安定に関すること。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	・ 他者に自分の気持ちを伝えることが難しく、暴言・暴力が出ることがある。 ・ 注意や集中を持続して、学習に取り組むことが難しい。
人間関係の形成	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	・ 衝動の抑制が難しい。

(3) Co-MaMeの観点からの情報収集

区分名	生徒の課題	支援の時期
心理A2 感情のコントロール	イライラすると暴言・暴力をしたり、教室を飛び出したりすることがある。	受容期～試行期
学習C6 注意・集中	疲れている時やつまずいた時等に、集中できず教室を飛び出すことがある。	受容期～試行期

2 指導仮説と指導目標

(1) 指導仮説

「授業の組み立てを工夫することで、学習に向き合える時間が増えるのではないか」

(2) 指導目標

①長期目標

「休憩をとりながら、提示された学習活動に取り組むことができる。」

②短期目標

「教師と活動内容を相談し、授業に取り組むことができる。」

3 実践と評価

(1) 安心と見通し・集中のための支援

①具体的な実践内容

・活動の希望と選択

いつ	誰が	どのような場面で	何をするか
教科学習 (数学、理科、美術)	学部職員 (主にグループのメンバー)	授業開始時	・ 本時の内容の提示 ・ 本人が希望する活動の聞き取り →可能な範囲で取り入れて授業を実施

②実践時期

7月～12月

③実践の状況について

【実践前】

- 朝のHR時は落ち着いて予定を確認するが、苦手な教科の学習が始まる直前になると不穏になり、学習が難しい。
- 活動（聞くこと、書くこと等）に難しさやつまずきを感じた時に、プリントやファイルを投げる・やぶく等することがある。
- 教室を飛び出した後、時間を置いてから不安や心配について端的に話すことができる。

③実践の状況について

【実践中】 6月～9月頃

- 苦手な授業前の業間、教室に入り難い様子がみられた。教科担任と相談したり、担任が介在したりすることで、短時間だが授業に取り組む場面が増えた。
- 学習の量を明確にすると、苦手な活動でも5～10分程度取り組む場面があった。
（プリント1枚、○分間で終了 等）
- 不穏になる前に、関係が近い教師（担任・副担任）に対して、ネガティブな気持ちを訴える場面があった。

授業記録シートの作成

毎時間、授業後に記入。

- 出欠の○×
- 生徒の様子
- 取り組んだ時間
- 指導の手立て
(有効だったもの)

授業記録シート

授業者 () 教科 ()

	活動①	活動②	活動③	活動④
出席・欠席 (○×で記入)				
生徒の様子 (該当するものに○)	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()
取り組めた時間 (数字を記入)	分	分	分	分
特記事項 (有効だった手立て等 あれば記入)				
【備考】有効だった手立て、話題に上がったこと等あれば記入				

	活動①	活動②	活動③	活動④
	文字式の計算 問題集 2 ページ			
出席・欠席 (○×で記入)	○			
生徒の様子 (該当するものに○)	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()
取り組めた時間 (数字を記入)	40分	分	分	分
特記事項 (有効だった手立て等 あれば記入)				
【備考】 有効だった手立て、話題に上がったこと等あれば記入 他校の中学生がどこまでやっているかを聞いてきて、中1の内容を勉強しなければいけないと思ったようで、問題集を見ながら説明を聞き、練習問題を1人で解こうとしていた。間違えたところを訂正しても怒ることなく続けた。終わりの方で今日自立活動の時間がないことに気づき、休養をとれないとイライラし始め、教室を出て行った。担任と話して教室に戻ることができた。				

11月11日(月)	活動①	活動②	活動③	活動④
1校時	中間テストの予告	地層の作り方 (プリント&模型)	実験準備 (畑の土を採取)	地層の作り方 (実験)
出席・欠席 (○×で記入)	○	○	○	○
生徒の様子 (該当するものに○)	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()
取り組めた時間 (数字を記入)	5 分	10 分	15 分	20 分
特記事項 (有効だった手立て等 あれば記入)	時程、目標、配慮等を簡単に 説明。	・黒板前に2人で座り、要点 を黒板に書きながら説明。 ・授業のゴールをはっきりと 伝えた。	・土を採取している間、掘り 起こした後のサツマイモ畑 に興味を示したため、時間 を決めて自由時間を過ごし た。	・実験の方法と気をつけてほ しいことのみ簡単に説明 し、実験中の操作について は、本人の考えにゆだねた。
【備考】有効だった手立て、話題に上がったこと等あれば記入 ・活動④について⇒実験で確かめてほしいことや、器具の操作については事前に説明したが、水を出す箇所や勢い等の細かい指示は出さずに見守った。模型の様子が変わっていく様子を見ながら要点を説明していくと、興味をもって話を聞いたり、水の勢いや流す箇所を変えたりして自分なりに変化を確かめようとする様子がみられた。				

(10月21日(月)) 5校時	活動①	活動②	活動③	活動④
	作品票書き	陶芸 (マグカップ作り)	休憩	
出席・欠席 (○×で記入)	○	○	○	
生徒の様子 (該当するものに○)	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()	調子よい・普通・疲れている 眠い・注意散漫・不穏・徘徊 帰園・体調不良・問題行動 保健室(相談・寝ている) 相談・その他()
取り組めた時間 (数字を記入)	5 分	35 分	10 分	分
特記事項 (有効だった手立て等 あれば記入)		「粘土を練っていると、気持ち が落ち着くんですね。」 と発言。	教室休憩も選び、教室に 行った後保健室に水も 飲みに行った。	

【備考】有効だった手立て、話題に上がったこと等あれば記入

- ・作業内容の説明をした後は距離もと見守った。距離をとることで本人にとって圧迫感が減り、落ち着いて作業ができていた。また、自分からわからない点を質問することができた。

③実践の状況について

【実践中】 10月～11月頃

- 苦手教科前の業間に、学習時間と学習内容について担任と相談した。できることを一緒に教科担当に伝えた上で授業に入ることで、担任の介在なしで一定時間取り組むことができた。
- 体調によって取り組みの波がみられるが、苦手な活動でも30分程度継続して取り組む場面があった。
- 不穏時から日課に戻るまでの時間が早くなってきた。こらえきれずに飛び出すこともある。

3 実践と評価

(2) 自信のための支援

①プリントへの評価コメント

・活動の希望と選択

いつ	誰が	どのような場面で	何をするか
教科学習	教科担当	授業の活動終了後	・学習で使ったプリントに、花丸&コメントを記入し、生徒にファイリングさせる。

②実践時期

10月～12月

③実践の状況について

【実践前】

- 「頑張ってもどうせ出来ない」「こんなの出来ても意味がない」等、悲観的な発言がみられる。
- 自己評価の低さから、プリントをファイリングすることへの拒否感がある。
- 記録の蓄積が難しく、学習が積み重なっている実感を得にくい。

③実践の状況について

【実践中】

- ・ ネガティブな発言は継続してみられるが、発言中の言葉遣いが柔らかくなってきている。
- ・ コメントを確認し、自分でファイリングするようになった。
- ・ 積み重ねの実感については、記録や発言等から評価することは難しかった。

Ⅲ 来年度へ向けて

【来年度へ向けて】

支援の方向性	指導仮説・指導目標はおおむねクリア →学習に向き合う機会が増え、落ち着いて取り組む時間が延びた。 一方で、教科毎の苦手さが見えてきた。 →<u>苦手なことへの取り組み方に工夫が必要。</u>
研究方法について	・グループ研で出された意見を参考に、教科担当が工夫を重ねて授業実践することができた。 ・日々の様子と授業の様子の記録を取ることで、実践前後の変化を比較することができた。 ・生徒の実態から、生徒の具体像の共有が難しかった。